

平成17年度 高冷地水稻生育速報(第4報)

中山間農業技術研究所

1. 生育概況(6月28日)

品種名	年度	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色		葉齡
				葉色板	SPAD値	
ひとめぼれ	本年	39.7 (93%)	599 (112%)	4.8 (-0.4)	38.1 (-2.3)	9.2 (+0.8)
	前年	42.5	507	5.3	42.1	8.5
	平年	42.8	535	5.2	40.4	8.4
コシヒカリ	本年	41.9 (92%)	508 (88%)	5.2 (+0.0)	40.2 (+0.2)	8.9 (+0.2)
	前年	49.5	571	5.2	41.2	8.4
	平年	45.6	575	5.2	40.0	8.7
たかやまもち	本年	38.9 (85%)	384 (68%)	5.0 (-0.2)	40.1 (+0.2)	8.8 (+0.0)
	前年	47.1	445	5.2	40.9	8.6
	平年	45.7	565	5.2	39.9	8.8
ひだほまれ	本年	47.1 (103%)	513 (113%)	4.8 (-0.1)	40.5 (+2.1)	9.4 (+0.4)
	前年	47.8	423	4.7	39.7	8.5
	平年	45.8	456	4.9	38.4	9.0

栽培条件: 移植5月17日 栽植密度22.2株/m² 1株4本稚苗移植 基肥N=0.5kg/a
 平年値: 過去5年間の平均値
 ()内の数値は対平年値

2. 生育状況と当面の管理

1) 生育状況

平年と比較すると、全体に草丈は短めである。茎数は、「ひとめぼれ」「ひだほまれ」で平年を上回ったものの、「コシヒカリ」「たかやまもち」の両品種では、依然として平年より茎数が少ない。特に「たかやまもち」では茎数不足が懸念される。

葉色は、葉色板では全体に低めの値となっているが、SPAD値では「ひとめぼれ」以外で平年値を上回っている。葉齢はいずれの品種も平年を上回っており、茎数不足の「たかやまもち」以外は、初期生育の遅れから回復したといえる。

当所育成の極早生種で幼穂長約1mmを確認した。予想出穂期は7月20日頃で、前年並みである。

2) 病害虫等の発生状況

例年になく遅い時期ではあるが、イネドロオイムシの発生を確認した。イネツトムシ及びイネアオムシについては、幼虫の成長に伴い食害がめだつようになった。ニカメイチュウは、わずかながら被害株が増加しているようである。

葉いもちについては、現在のところ発生を確認していない。

3) 今後の管理

本格的な梅雨期を迎え、天候不順が予想される。また、品種やほ場により生育の状況が大きく異なるので、天候や生育に応じた管理を心がけたい。

有効茎数を確保できているほ場では、必ず中干しを実施する。有効茎数を確保できていない(生育が劣り、茎数が不足している)ほ場では、強い中干しは行わないこと。中干し後の水管理は、間断灌水とし深水を避けるようにする。

また、追肥として「けい酸加里」を10aあたり30kg施用する。特に倒伏しやすい「コシヒカリ」「ひとめぼれ」には必ず施用したい。生育が劣って見えるので窒素肥料の追肥をしたくなるが、極端に生育が悪い場合を除き見合わせる。

<参考> 前回調査時(6月21日)の生育概況

品種名	年度	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色		葉齡
				葉色板	SPAD値	
ひとめぼれ	本年	29.5 (94%)	440 (96%)	4.5 (-0.6)	37.5 (-3.4)	7.9 (+0.5)
	前年	31.8	415	5.1	40.6	7.2
	平年	31.3	457	5.1	40.9	7.4
コシヒカリ	本年	33.3 (101%)	342 (72%)	5.0 (+0.1)	39.6 (-0.3)	7.6 (+0.0)
	前年	32.7	475	5.0	39.9	7.2
	平年	33.0	478	4.9	39.9	7.6
たかやまもち	本年	29.8 (87%)	324 (68%)	4.9 (-0.1)	37.5 (-1.5)	7.4 (-0.4)
	前年	33.3	359	5.0	38.5	7.2
	平年	34.2	478	5.0	39.0	7.8
ひだほまれ	本年	37.0 (105%)	406 (103%)	4.4 (-0.5)	37.5 (+0.6)	8.1 (+0.4)
	前年	33.6	320	4.6	37.8	7.1
	平年	35.2	392	4.9	36.9	7.7

中山間農業技術研究所
TEL 0577-73-2029
FAX 0577-73-2751